

## 看護学の 新スタンダード

### ▶ 視覚に訴える教育を

#### Visual

写真や図表をより見やすく、視覚に訴え、直感的な理解を助ける紙面づくりを展開します。

### ▶ 社会・時代のニーズを先取り

#### Evolutionary

医療・看護は、社会情勢と密接に結びついたもの。これらの環境変化を積極的に生かしていただける執筆陣を起用。新しい社会に対応できる内容を目指します。

### ▶ 予防と健康増進の視点を

#### Promoting Wellness

疾病や健康障害の視点でとらえる看護だけでなく、今後ますます必要性が見込まれるヘルスプロモーションの視点、すなわち「予防と健康増進の考え方」を重視しています。

## 最新研究データを 常に反映

### ▶ 臨床の最新情報を反映

#### Up-to-Date

厚生労働省、総務省、学会、薬品・薬剤メーカーなどからの情報を収集。必要に応じて適切に改訂を行います。また、WEBサイトなどを活用して最新の情報を提供します。

### ▶ 科学的根拠を明らかに

#### Scientific

一つひとつの記述に存在する科学的根拠を明らかにすることで、実習や臨床での知識の応用を可能にします。

# 未来のプロフェッショナル ナースを応援

ナーシング・グラフィカは

**G**raphic  
**G**lobal  
**G**rand

な教育を実現します

## 本当に必要な知識の掲載と 自己学習の促進

### ▶ 確実に習得すべき知識を見極める

#### Essential Knowledge

国家試験出題基準の内容を網羅し、看護基礎教育で果たすべき役割はどこまでかを見極めた、必要最低限習得しなければならない知識を盛り込んでいます。

### ▶ 学生の自学自習をサポート

#### Self Development

看護は、常に新しい情報を取り入れ研究し、改善していく力が要求される仕事。『ナーシング・グラフィカ』は、その見やすさとわかりやすさで学生の学習意欲を高め、自ら積極的に工夫・進化していく自己学習法を身に付けられるよう工夫しています。

### ▶ ICTの活用

#### e-Education

授業教材のデジタル化、ネットワーク化を積極的に推進。デジタル看護教科書®『デジタル ナーシング・グラフィカ』や動画などを活用することで、質の高い授業づくりが可能です。

### ▶ 看護教育力UP&課題解決セミナーを開催

#### Seminar

「講義の構築」や「学生への教授法」などのセミナーをはじめ、国家試験対策の指導法にいたるまで、さまざまなテーマを企画。看護教育力向上や貴校の課題解決のお手伝いをします。

### ▶ 看護師国家試験の合格までサポート

#### Examination

「メディカコンクール」(模擬試験)と「Nプラス」「BeNs. (ビーナス)」(e-Learning)など、さまざまなコンテンツで、合格までトータルサポートします。

# 1 学生の自己学習を促す構成、必要な知識を厳選して簡潔明瞭に記述

# Self Development

平易な表現で今の学生にとっても理解しやすい内容。  
plus αや用語解説も充実し、本文の理解を助けます。

**plus α**

●②のあい (pp.426, 427参照)  
●鼻はにおいの感覚器官でもある。  
●嗅球の鼻、上唇(下唇)上部の粘膜には、においを感知する特殊な神経細胞(嗅細胞)があり、刺激を感知する。  
●この神経細胞は嗅球の神経線維を通じて嗅球に達し、シナプスをつつて次の神経(嗅神経)に連絡し、におい物質による刺激を伝える。

●③の目 (pp.426, 427参照)  
●角膜は眼球の最前面にあり、光を屈折させる役割がある。  
●瞳孔は虹彩の開口部であり、光の量を調節する。  
●水晶体は光を屈折させる役割がある。  
●網膜は光を感知する役割がある。  
●視神経は網膜から脳へ情報を伝える。

●④の皮膚 (pp.426, 427参照)  
●皮膚は体の表面を覆っており、体温調節や水分蒸発防止の役割がある。  
●表皮は皮膚の最外面であり、角質層と生肌層からなる。  
●真皮は表皮の下層であり、コラーゲンやエラスチンを含む。  
●皮下脂肪は保温作用がある。

**用語解説**

●⑤の心臓 (pp.426, 427参照)  
●心臓は血液を全身に送り出すポンプである。  
●右心房は静脈血を受け入れる。  
●右心室は静脈血を肺動脈へ送り出す。  
●左心房は肺動脈からの酸素化血を受け入れる。  
●左心室は酸素化血を大動脈へ送り出す。

●⑥の毛細血管 (pp.426, 427参照)  
●毛細血管は最も細い血管であり、物質交換の場である。  
●静脈血は酸素を放出し、栄養素を供給する。  
●動脈血は酸素と栄養素を供給する。

# 2 全ページカラー／ビジュアル解説で記憶に残る

写真・イラスト・図表を多く用いることで視覚的に理解できます。  
誰にとっても見やすく、読みやすいユニバーサルデザインを使用。

**2 自然免疫系から獲得免疫系への情報伝達**

●自然免疫系は、病原体の侵入を早期に検知し、迅速に反応する。  
●獲得免疫系は、病原体の侵入を遅く検知し、より強力な反応を示す。  
●自然免疫系と獲得免疫系は、互いに連携して免疫応答を調節する。

**3 身体活動の重要性**

●身体活動は、健康を維持し、生活の質を向上させる。  
●身体活動は、心臓血管系を強化し、血圧を低下させる。  
●身体活動は、骨密度を増加させ、骨折のリスクを低下させる。  
●身体活動は、認知機能を向上させ、脳の健康を維持する。

# 3 豊富な動画で、学生の理解を視聴覚面からサポート

看護技術の手順・ポイントの具体的な理解や、看護の実際がイメージでき、  
講義・演習・臨地実習前の不安軽減、知識の整理に役立ちます。

**理解を深める活用法を動画で紹介**

**動画視聴手順:**  
QRコード®またはメディカARアプリマーカーを読み取り再生できます。  
※読み取り方法は教科書によって異なります。詳しい使い方は、お持ちの教科書のP2をご覧ください。  
※QRコード®は株式会社デンソーの登録商標です。

**2025年度より順次QRコード®読み取りに！使いやすさUP!**

**各巻詳細ページで動画一覧を紹介!**

# 4 グループワークに使える事例やワークシートなど多数掲載、臨床実践能力・看護観が養える

学んだ内容を臨床場面と結び付けられる事例「臨床場面で考えてみよう」など、  
臨床をイメージしながら学べます。

**ワークシートや設問で自習・グループ学習に最適**

**卒後も活用できる実践的な知識も掲載**

# 5 コラムで周辺知識や最新TOPICを紹介、発展的な学習に役立つ

**より学びを深める知識を掲載、応用学習にも役立つ。**

●**コラム1: ポケットPCの在宅看護における役割**  
在宅看護において、ポケットPCは重要な役割を果たしています。患者のバイタルサインを記録し、医師と共有することで、迅速な対応が可能になります。

●**コラム2: 地域に根ざる保健の役割**  
地域に根ざった保健活動は、住民の健康を促進し、疾病の予防に役立ちます。地域住民との連携が重要です。

スッキリした見やすい紙面を実現



# ナーシング・グラフィカの対応と特長

2022年度新カリキュラムに対応

教育内容	留意点	ナーシング・グラフィカの対応と特長
<p>人体の構造と機能 疾病の成り立ちと 回復の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護学の観点から人体を系統だてて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するため、解剖生理学、生化学、栄養学、薬理学、病理学、病態生理学、微生物学等を看護実践の基盤として学ぶ内容とする。</li> <li>臨床判断能力の基盤となる演習を強化する内容とする。</li> <li>アクティブラーニング等を分野・領域に関わらず活用することにより、主体的な学習を促す。</li> </ul>	<p><b>解剖生理学</b>：系統別にまずグラフィックな図と解説で全体像を把握できます。また「解剖生理学が臨床につながる！」では、解剖生理学の知識を、看護実践にどのように活用・応用できるかを症例をもとに具体的に解説しています。</p> <p><b>臨床生化学</b>：図解によって身体全体での代謝が視覚的につながって理解できます。また、各章の扉ページや「考えてみよう」で身近な生化学の例や質問の回答を紹介し、生化学の知識を臨床場面に即して考えられるよう工夫しています。</p> <p><b>病態生理学</b>：まず疾病の起こるメカニズムを学習し、その不調がどのように現れるのかという実践的なとらえ方ができるよう、臨床でよく遭遇し、かつ重要な疾患を学び、それらに現れる症状・徴候について学習します。これにより、臨床で接する患者さんに起こっている病的変化が、根本から理解できます。</p> <p><b>臨床薬理学</b>：身近な疾患、重要な疾患を理解し、疾患の原因を除去するために薬が使用されることを考えながら学習できるよう工夫しています。また、各業の解説では、患者の安全確保を意識した看護における留意点を掲載しています。</p> <p><b>臨床微生物・医動物</b>：感染症と病原体の章では、各節に「臨床場面で考えてみよう」を掲載し、臨床で遭遇する患者を想定した学習ができます。また、病原体は症状が現れる臓器・組織別、宿主の因子など別に分類し整理したことで、臨床における実践的な思考・判断につなげて学習することができます。</p> <p><b>臨床栄養学</b>：栄養学の基礎を踏まえ、根拠をもって、実際に患者の健康状態に合わせてどのように応用していくか、疾患別の栄養食療療法、嚥下調整食、経腸栄養と経静脈栄養などについて解説し、実践力が身に付く学習ができるよう工夫しています。</p> <p><b>呼吸器、循環器、消化器、血液/アレルギー・膠原病/感染症、脳・神経、眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚、運動器、腎/泌尿器/内分泌・代謝、女性生殖器</b>：疾患及び機能障害とその看護までを体系的に学べる全9巻のシリーズです。解剖や病態の図解ページなど、圧倒的なビジュアルを特長とし、「臨床場面で考えてみよう」のコーナーでは臨床判断能力となる学習ができます。専門基礎分野「疾病の成り立ちと回復の促進」及び専門分野「成人看護学」に対応するテキストです。</p>
<p>健康支援と 社会保障</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じて<b>社会資源を活用できるように</b>に必要な知識と基礎的な能力を養う内容とし、<b>保健・医療・福祉</b>に関する基本概念、関係制度、関係する職種役割の理解等を含むものとする。</li> </ul>	<p><b>健康と社会・生活</b>：社会的な健康、科学からとらえた健康行動についての解説が充実しています。医療・保健のみならず、福祉・労働・住居・地域社会の発展などの分野において、<b>看護師の活躍が期待され、またその機会が広がっていることも理解</b>できる内容になっています。</p> <p><b>公衆衛生</b>：看護職にとって欠かせない保健・福祉の概念・知識を学生の生活に引き寄せながら説き明かし、「個」だけでなく、「集団」「社会」の視点からも<b>健康問題をみる目</b>を育てます。地域の健康を支える機関・職種の役割と連携、社会制度について簡潔に説明しています。ワークページや統計データ等の考え方のヒントを示し、能動的な学習を促します。</p> <p><b>社会福祉と社会保障</b>：<b>社会福祉と社会保障が日々の暮らしとどう関係する</b>のか、歴史や理念に触れながら、他の専門職との関わり、社会資源の活用方法、制度の理解へと導いていきます。<b>障害・疾患を抱えながら社会とのつながりをもって生きる</b>ということ、事例を通して知ることができます。</p> <p><b>看護をめぐる法と制度</b>：看護行為、また倫理行動や労働環境を考えるうえで医療関係の法律を学ぶ意義は増大しています。<b>看護を实践するうえで関連する100以上の法律</b>を取り上げ、それらが制定・改正された背景を含めて解説を展開しています。</p>
<p>基礎看護学</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>臨床判断能力や看護の基盤となる</b>基礎的理論や基礎的技術、<b>看護の展開方法</b>等を学ぶ内容とし、<b>シミュレーション等を活用した演習</b>を強化する内容とする。</li> <li>コミュニケーション、フィジカルアセスメントを強化する内容とする。</li> <li>事例等に対して、<b>安全に看護技術を適用する方法</b>の基礎を学ぶ内容とする。</li> <li>看護師として<b>倫理的に判断し、行動</b>するための基礎的能力を養う内容とする。</li> </ul>	<p><b>看護学概論</b>：看護の現状について、理論、倫理、法・制度、社会福祉システムとの関係など、あらゆる角度からの確かな簡潔に解説しています。「健康」「病気」といった基本的な概念をめぐる考察から、<b>患者の状態を素早く判断する能力の必要性、適切な看護実践のあり方、有効な看護過程の進め方</b>まで、様々なレベルで「看護」の本質を解説しています。</p> <p><b>基礎看護技術Ⅰ コミュニケーション/看護の展開/ヘルスアセスメント</b>：コミュニケーションや看護の展開、フィジカルアセスメントなど、<b>看護技術の実践の基盤となる知識や技術、考え方を基本</b>から解説しています。また、ゴードン、マズロー、ヘンダーソンの基本的・代表的なアセスメント理論を押さえたうえで、<b>事例を通して統合的なアセスメントを学ぶ</b>とともに、<b>思考過程の可視化</b>により判断能力を養います。</p> <p><b>基礎看護技術Ⅱ 看護実践のための援助技術</b>：フィジカルアセスメント等を活用した看護技術の実践を、<b>豊富な写真・イラスト、動画</b>を用いて解説しています。また、「臨床場面で考えてみよう」では、<b>実習や実際の援助をイメージ</b>できるように工夫しています。技術ごとに<b>個別性を考慮した留意点</b>を示しており、<b>安全に、個別性を踏まえた看護技術を实践</b>できる能力を養います。</p> <p><b>看護研究</b>：看護研究とは何かから論文の執筆の仕方まで、看護研究の基本を豊富な図やイラストを用いて詳しく解説しています。看護研究に親しみをもちながら、実際に研究の遂行や論文の執筆に取り組む力を身に付けることができます。</p> <p><b>臨床看護総論</b>：臨床で多く遭遇する疾病に関する<b>事象15場面</b>を取り上げ、<b>看護事例を「点」ではなく「線」</b>で学びます。継続した事例で学習することで、臨床看護全体をイメージすることができ、事例の前後に発生しうる事象に目を配る細やかな看護を身に付けます。</p>
<p>地域・在宅看護論</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>地域で生活する人々とその家族</b>を理解し、<b>地域における様々な場</b>での看護の基礎を学ぶ内容とする。</li> <li>地域で提供する看護を理解し、基礎的な技術をも身につけ、<b>多職種と協働</b>する中での看護の役割を理解する内容とする。</li> <li><b>地域での終末期看護</b>に関する内容も含むものとする。</li> </ul>	<p><b>地域療養を支えるケア</b>：地域・在宅看護職に特有の「生活者を見る」視点や、<b>多職種チームにおける連携のあり方、地域の中のさまざまな場</b>で看護職が担う役割を教授できる内容です。療養者のための社会資源の活用や看護のあり方について、<b>地域包括ケアの視点をもって自ら考える力</b>を養います。それぞれの章末には、<b>実践的な事例</b>を掲載し、療養者を支えるケアについての理解を深めることができます。近年の地域・在宅看護を取り巻くさまざまな動向や取り組みも紹介しています。</p> <p><b>在宅療養を支える技術</b>：在宅療養を支える技術と実践を、根拠と原理原則に基づいて学ぶことができます。<b>訪問看護・生活援助・医療ケアの技術について自立支援の視点から詳しく解説</b>しています。また、看護倫理・看護過程にも触れ、さらに在宅看護における<b>リスクマネジメント</b>まで幅広くカバーします。</p>

専門基礎分野

専門分野

# 看護基礎教育検討会報告書(令和元年10月15日厚生労働省) 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン —看護師教育の基本的考え方、留意点等(抜粋)—

教育内容	留意点	ナーシング・グラフィカの対応と特長
<p>成人看護学</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義、演習及び実習を効果的に組み合わせ、<b>看護実践能力の向上を図る</b>内容とする。</li> <li><b>健康の保持・増進及び疾病の予防</b>に関する看護の方法を学ぶ内容とする。</li> <li><b>成長発達段階</b>を深く理解し、<b>様々な健康状態</b>にある人々及び<b>多様な場</b>で看護を必要とする人々に対する看護の方法を学ぶ内容とする。</li> </ul>	<p><b>成人看護学概論</b>：成人看護学を学ぶ基盤として「成人とは何か」を明確にし、生活者として、大人としての成人の特徴を踏まえ、様々な側面をもちながら<b>青年期～向老期</b>を過ごす「成人」とその健康課題について、<b>看護学独自の視点</b>を解説しています。</p> <p><b>健康危機状況「セルフケアの再獲得</b>：成人に突然訪れた健康危機状況に対するセルフケアという概念を軸に置き、「急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力」に必要な知識と支援方法を学びます。それぞれの危機的状況にある患者への看護の実際を、<b>具体的な事例や会話例</b>で提示することで、よりリアルな学びにつなげます。</p> <p><b>セルフマネジメント</b>：慢性病を抱えた人が依存的な存在ではなく、自立した存在としてセルフマネジメントしていくための支援方法を、<b>疾患別の事例を通して具体的に学ぶ</b>ことができます。</p> <p><b>周期看護</b>：侵襲に関する生理学的な知識を理解し、必要な看護、手術の概要、手術時の看護援助を系統的に学ぶことで、<b>看護実践能力</b>を養います。また、臨床場面に当てはめて知識を振り返ることで、<b>臨床判断能力</b>を育てます。</p> <p><b>リハビリテーション看護</b>：急性期～回復期～生活期にかけての<b>具体的な疾患別の事例</b>を多数収載し、ICFに基づくアセスメントから生活の再構築に向けた支援まで、看護過程の展開について学べます。また、発症前の予防的リハについても解説しています。</p> <p><b>緩和ケア</b>：豊富な事例を用い「基本的緩和ケア」の実際を学びます。非がん疾患での緩和ケア、在宅緩和ケア、家族ケアについても具体的に解説し、様々な対象・場面での緩和ケアが理解できる内容になっています。</p> <p><b>呼吸器、循環器、消化器、血液/アレルギー・膠原病/感染症、脳・神経、眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚、運動器、腎/泌尿器/内分泌・代謝、女性生殖器</b>：疾患及び機能障害とその看護までを体系的に学べる全9巻のシリーズです。解剖や病態の図解ページなど、圧倒的なビジュアルを特長とし、「臨床場面で考えてみよう」のコーナーでは臨床判断能力の基盤となる学習ができます。専門基礎分野「疾病の成り立ちと回復の促進」及び専門分野「成人看護学」に対応するテキストです。</p>
<p>老年看護学</p>		<p><b>高齢者の健康と障害</b>：地域・在宅移行への流れを強化し、高齢者をサポートする社会体制(法、制度、社会資源)や、介護ロボット・AIなどのテクノロジーにも触れつつ、<b>高齢者の生活全体や個々の多様性、そのらしさを理解</b>できる内容となっています。また、健康な高齢者の生活面への支援について、加齢変化のポイントを押さえながら解説しています。</p> <p><b>高齢者看護の実践</b>：高齢者の「生活」「症状・疾患・障害」「受療状況」に分けて構成し、看護の実際を高齢者特有の動作、症状、疾患ごとに解説しています。また、イメージしにくい<b>実習場所</b>についても<b>事例</b>で様々な場面を想定し、<b>目標志向型思考</b>に沿って健康課題の抽出から看護実践・評価まで詳しく解説しています。</p>
<p>小児看護学</p>		<p><b>小児の発達と看護</b>：乳児期から幼児期、学童期、思春期にいたるまでの<b>子どもの成長・発達と看護が、網羅的に学習</b>できます。また、「健康障害をもつ子ども・家族への看護過程の展開」の章では、健康課題をもつ子どもと家族の特徴を理解したうえで<b>看護実践</b>が学べます。</p> <p><b>小児看護技術</b>：各看護技術の解説を「基礎知識(目的ほか)」「実施方法(準備するもの、手順&amp;アドバイス)」の順に構成し、目的や背景を理解してから、技術の習得に入ることができます。<b>写真やイラストを多数活用</b>することで、<b>視覚的な理解も促し、臨地実習には欠かせない内容</b>となっています。</p> <p><b>小児の疾患と看護</b>：教育と臨床の視点で学ぶべき疾患を厳選し、原因や診断・治療、ナーシングポイントなどを疾患ごとにまとめています。<b>臨床に直結した学習</b>が可能です。</p>
<p>母性看護学</p>		<p><b>概論・リプロダクティブヘルスと看護</b>：「妊娠・出産・子育て」に関わる女性の身体的、心理社会的特性に焦点を当てるだけでなく、<b>リプロダクティブ・ヘルスの視点から思春期・成熟期・更年期・老年期にある女性の健康問題と看護</b>について取り上げています。また、母性看護を取り巻く社会の変化が、統計や法律・施策を通して学習できます。</p> <p><b>母性看護の実践</b>：母性看護における実践について、妊娠・分娩・産褥期および新生児期に分け、母性看護の基本的な事項を丁寧に解説しました。母性の生理的変化の経過が視覚的にとらえられるよう、<b>経過図やイラストもふんだんに取り入れ</b>ています。</p> <p><b>母性看護技術</b>：実際の手法を豊富な写真とイラストで具体的に解説しており、<b>演習や臨地実習の予習・復習</b>に十分に活用できる内容になっています。</p>
<p>精神看護学</p>		<p><b>情緒発達と精神看護の基本</b>：人生各期の発達課題とメンタルヘルスの特徴を、<b>わかりやすく解説</b>しています。メンタルヘルス維持のために必要な予防や対処法、精神障害者と家族の関係が理解でき、リカバリーとその支援についても学べる内容です。</p> <p><b>精神障害と看護の実践</b>：「入院医療中心から地域生活中心へ」の流れを汲み、地域生活(移行)支援のための社会資源や多職種連携、看護の視点などを手厚く解説しています。また、<b>実習への準備や目標の立て方、実習先での人間関係や感情表出の考え方</b>まで学べる内容です。</p>
<p>看護の統合と実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>チーム医療における看護師</b>としてのメンバーシップ及びリーダーシップの発揮や多職種との連携・協働を学ぶ内容とする。</li> <li><b>臨床判断を行うための基礎的能力</b>を養うために、専門基礎分野で学んだ内容をもとに<b>看護実践を段階的に学ぶ</b>内容とする。</li> <li><b>看護をマネジメント</b>できる基礎的能力を養う内容とする。</li> <li><b>医療安全</b>の基礎的知識を含む内容とする。</li> <li><b>災害</b>の基礎的知識を含む内容とする。</li> <li><b>諸外国における保健・医療・福祉の課題を理解</b>する内容とする。</li> <li>看護技術の<b>総合的な評価</b>を行う内容とする。</li> </ul>	<p><b>看護管理</b>：医療現場における看護職の役割はますます増大し、チーム医療の中核として位置付けられている現状に即し、<b>多職種連携・協働</b>について触れながら、初學者にとって敬遠しがちな学習内容を、<b>身近な看護や実際のマネジメント</b>を交え解説しています。</p> <p><b>医療安全</b>：患者安全の観点から、<b>医療安全の基礎となる知識</b>を丁寧に解説しています。患者・医療者に起こりうる医療事故のリスクと対策、チームSTPPSを活用したチーム医療、看護実習中の医療事故に対する<b>施策</b>などを学び、演習や実習、臨床で活用できます。</p> <p><b>災害看護</b>：災害の基礎的知識を押さえ、<b>災害発生直後から静穏期・準備期に至るまで</b>、被災者や被災地域だけでなく、支援する側にとっても、何が起こり、何が必要なのかを考えながら幅広く学べる内容です。</p> <p><b>国際化と看護</b>：海外における国際看護と日本における国際看護の二本柱で構成しました。日本と世界の保健医療の現状と課題から国際看護の基礎を学ぶとともに、<b>豊富な事例</b>でグローバルな看護の実際と、今後の社会で求められる国際的な視点を学ぶことができます。</p>

専門分野